

## 「未来に残したい草原の里 100 選」 認定書授与式・記念フォーラムを開催します

- 美しい草原の風景を残す地域 14 箇所が、今春新たに 100 選として選ばれました。
- 10/12(木)に東京都内において、認定書の授与式を行います。
- 安藤邦廣氏（筑波大学名誉教授）の講演会、選定地域からの事例発表も行います。
- 同日から、第三次募集を開始します。

- 草原のある美しい風景とその地域に光を当てるため、「全国草原の里市町村連絡協議会」（会長：中村義明小谷村長）では「未来に残したい草原の里 100 選」を行っており、2022 年春に 34 箇所の地域を、そして 2023 年春には、新たに 14 箇所の地域を選定しました。



未来に残したい  
草原の里  
100選

- 10/12(木)、東京都内（会場：東京農業大学）にて、新たな選定地 14 地域への認定書の授与式と、記念フォーラムを開催します。フォーラムでは、選考委員で筑波大学名誉教授である安藤邦廣氏による茅葺きに関する講演会と、全国 7 箇所の地域からの事例発表があります。（資料 1：チラシ）



- 授与式・フォーラムには、マスコミの方を含めて、一般の方も参加できます（要予約）。以下の画面から申込みができます。

<https://sogen100-02.peatix.com>

- 引き続き、全国の草原のある地域を選定するために、10/12(木)より第三次募集を開始します。なお、14 箇所の選定地や「未来に残したい草原の里 100 選」の概要は、資料 2～3 のとおりです。

### ■ 本リリースに関するお問合せ

全国草原の里市町村連絡協議会 事務局 担当：丸山・澁谷

〒399-9494 長野県北安曇郡小谷村大字中小谷丙 131 小谷村教育委員会 社会教育係

Tel: 0261-82-2587 Email: [sogen100@sogen-net.jp](mailto:sogen100@sogen-net.jp)

[メールアドレスへのご連絡を推奨しています。](#)

授与式・選定記念フォーラム

2023年10月12日(木) 13:00~17:00



未来に残したい

# 草原の里100選

「共創資産」を次代につなぐ、  
これからの暮らしづくり

**開催場所** 東京農業大学 横井講堂（東京都世田谷区桜丘 1-1-1） &  YouTube

**開催場所** 無料 現地参加は右フォームから事前登録してください

**YouTube** <https://www.youtube.com/@sogen-net>



申込みフォーム

## 記念講演

### 草原を持続させる茅葺きとその暮らし

安藤 邦廣（選考委員・筑波大学名誉教授）



## 事例発表

### 五箇山相倉茅場 世界遺産の屋根を葺く茅を自給自足する

中島 仁司（相倉史跡保存顕彰会／富山県南砺市）

### 鉄山 刈安なびく天空の草原

星 英雄（藤生区／福島県南会津町）

### 中瀬草原 羊の放牧による草原の再生

白石 悦二（株式会社中瀬草原キャンプ場／長崎県平戸市）

### 菅平高原・峰の原高原 北アルプスを望む百名山の草原

田中 健太（根子岳・四阿山保全協議会／長野県上田市、須坂市）

### 玉原湿原 ブナの森に育まれた自然豊かな湿原

二川 真士（利根沼田自然を愛する会／群馬県沼田市）

### 冬師湿原 鳥海山の山体崩壊がもたらす草原と湿地の生物多様性

長船 裕紀（一般社団法人鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会／秋田県にかほ市）

### 霧ヶ峰 花々が彩る高原の草原をみんなで守る

土田 勝義（霧ヶ峰自然環境保全協議会／長野県諏訪市、茅野市、下諏訪町）



主催 | 全国草原の里市町村連絡協議会

全国草原の里市町村連絡協議会 事務局

後援 | 環境省、農林水産省、東京農業大学

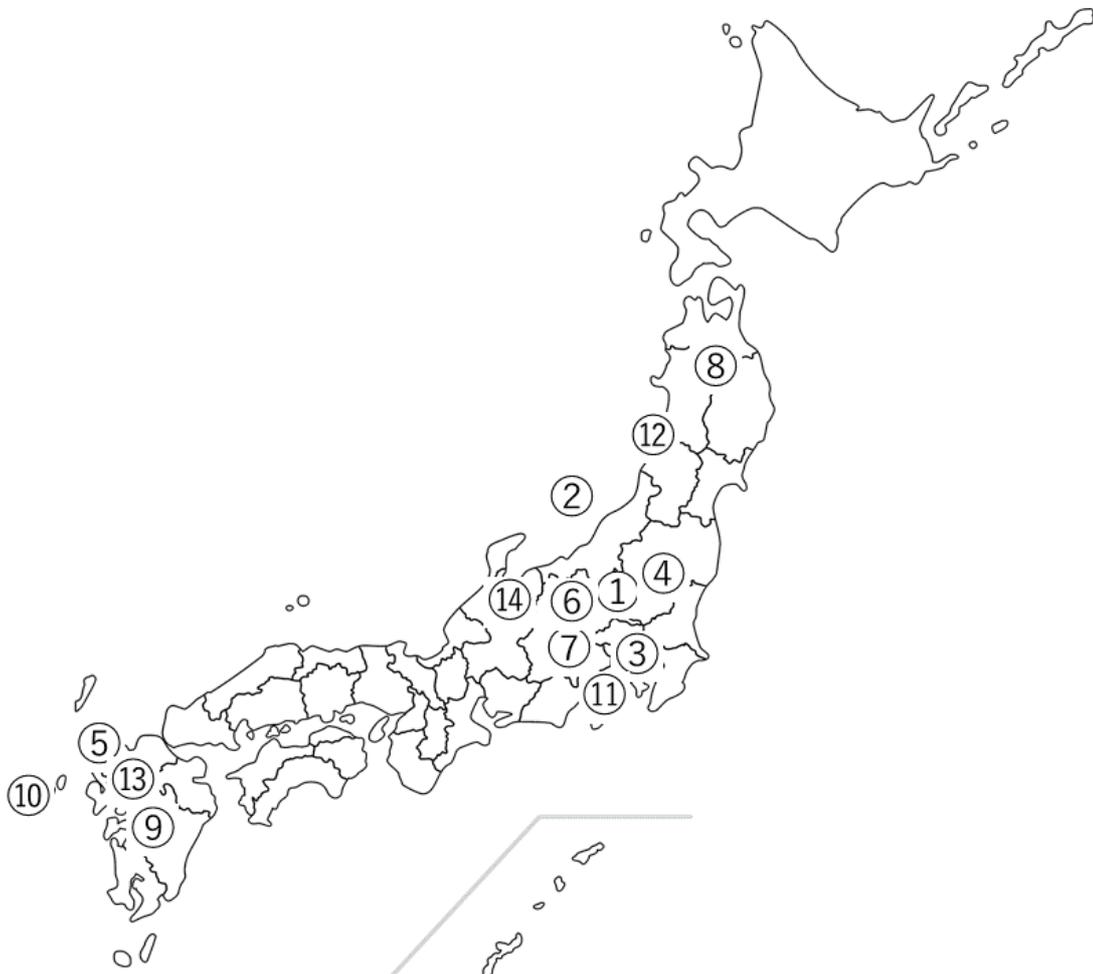
〒399-9494 長野県北安曇郡小谷村中小谷丙131

小谷村教育委員会

E-mail: [sogen100@sogen-net.jp](mailto:sogen100@sogen-net.jp) / TEL: 0261-82-2587

〈資料 2〉 今回選定された「未来に残したい草原の里 100 選」の名称および位置

番号	草原の里名称	所在市町村
1	玉原湿原（たんばらしつげん）	群馬県沼田市
2	ドンデン高原（どんでんこうげん）	新潟県佐渡市
3	田島ヶ原サクラソウ自生地（たじまがはらさくらそうじせいち）	埼玉県さいたま市
4	鋏山（はさみやま）	福島県南会津町
5	中瀬草原（なかぜそうげん）	長崎県平戸市
6	菅平高原・峰の原高原（すがだいらこうげん・みねのはらこうげん）	長野県上田市、須坂市
7	霧ヶ峰（きりがみね）	長野県諏訪市、茅野市、下諏訪町
8	安比高原・遊々の森（あっぴこうげん・ゆうゆうのもり）	岩手県八幡平市
9	西原村（にしはらむら）	熊本県西原村
10	五島・鬼岳（ごとう・おにだけ）	長崎県五島市
11	箱根の仙石原（はこねのせんごくはら）	神奈川県箱根町
12	冬師湿原（とうししつげん）	秋田県にかほ市
13	城と翁とスキーの基山の草原（しろとおきなとすきーのきざんのそうげん）	佐賀県基山町
14	相倉集落（あいのくらしゅうらく）	富山県南砺市



## ＜資料3＞ 未来に残したい草原の里 100 選について

### ○趣旨

かつて、日本の暮らしは草原によって支えられてきました。草原の草は、茅葺き屋根、肥料や敷草の材料、牛や馬の飼料として必要でした。また、ワラビなどの食物やセンブリなどの薬草も、草原の恵みでした。草原の資源を最大限に活用するため、利用のルールや火入れ（山焼きや野焼きなど）の技術が各地で生み出され、引き継がれてきました。しかし、高度経済成長期以降、草原は国土の1%にまで激減しています。一方、草原のある里で育まれてきた「過去のものと思われていた」技術や知恵は、これからの持続可能な社会を実現する上で大切なことが分かってきました。

そこで、日本各地の草原の里に残る技術や知恵、なつかしい風景を日本全体で共有・活用し、次世代に希望のある自然共生型社会をつくることを目的に、2018年7月4日、全国の自治体首長が組織する「全国草原の里市町村連絡協議会（連絡協議会）」は、環境省に「全国草原の里100選」の検討を進めていくことについて要望書を提出し、連絡協議会として選定事業を進めてきました。

2022年春には国内初となる34箇所の草原の里を選定しました。2023年春には第2回の選定を行い、新たに14箇所の地域を選定しています。

### ○未来に残したい草原の里 100 選 選考委員会（2023年9月1日現在、敬称略、五十音順）

#### （委員長）

湯本 貴和 京都大学名誉教授、中部大学客員教授、京都芸術大学客員教授

#### （委員）

安藤 邦廣 筑波大学名誉教授、一般社団法人日本茅葺き文化協会代表理事

河野 博子 ジャーナリスト、一般財団法人自然環境研究センター理事

高橋 佳孝 一般社団法人全国草原再生ネットワーク代表理事

中村 義明 全国草原の里市町村連絡協議会会長、小谷村長

長沢 裕 タレント、公益財団法人日本環境教育フォーラム理事

町田 怜子 東京農業大学教授

養老 孟司 東京大学名誉教授

○主 催：全国草原の里市町村連絡協議会

○後 援：環境省、農林水産省

## 第三次募集のスケジュールについて

2023年10月12日 第三次募集の開始

2024年1月上旬 第三次募集の締め切り

2024年4月頃 第三次選定地の決定

2024年秋頃 認定式、フォーラムの開催

## ＜参 考＞ 全国草原の里市町村連絡協議会について

草原をもつ自治体間の連携と草原保全を進めることを目的として、2016年11月に発足しました。現在、28市町村により構成されています（現事務局：長野県小谷村）。2019年の定時総会において、「未来に残したい草原の里100選」の選定事業を進めていくことを決めました。